

# 生研 ニュース

PHOTO 倉科満寿夫



IIS NEWS  
No.106  
2007.6

●機械・生体系部門 教授  
大島 まり

IIS  
TODAY

今月号は、機械・生体系部門の大島まり教授と生後6ヶ月の恵理ちゃんにご登場いただきました。長女ご出産に関して「最初は不安だったが、生研の皆様に励ましていただき、アットホームな環境で出産できました。出産後も皆様に喜んでいただき、私は非常に恵まれていると思う」。その思いを、赤ちゃんのお名前にこめられたそうです。現在は、東京大学の男女共同参画室委員、生研の「知の社会浸透ユニット」代表などの大役をお勤めになるほか、SNGやUROPを通じて、青少年の科学技術リテラシーを高める活動をされています。その傍らで、なんと5月からはNHKサイエンスZEROのコメンテータとしても復活されて、内外で大活躍のご様

子。勿論ご研究においても、数値解析力学という機械工学的な発想で、脳動脈瘤、脳血管障害などのメカニズムを解明するアプローチが大変注目されています。朝晩の保育園の送迎の合間にこれだけのお仕事をこなされ、さぞお疲れかと思いきや「子育てしながらの研究はすばらしい！ もちろん若いときのように徹夜して研究はできないが、少しでも継続して研究をしていけば、必ず挽回できる。継続して従事できる研究という仕事は、女性にとってもよいキャリアだと思う」。と超前向きのお言葉。そのパワーに圧倒されてしまいました。今後とも生研をよろしくお願いします！

(竹内 昌治)

## 生研記者会見報告

3月14日第63回記者会見

### 圧力で色が変わる！刺激応答性有機発光材料—分子の並びで発光を制御— 生研・荒木孝二教授等が開発

物質・環境系部門  
荒木 孝二教授発表

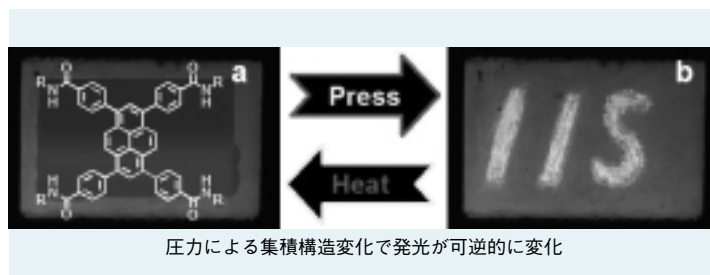
フォトクロミック材料のように可逆的な色変化を示す材料は、記録・表示や計測用の材料として注目されているが、一部を除き繰り返し耐久性に難点がある。本所・荒木孝二教授等は、化学構造を変化させることなく分子の集積構造を可逆的に変化させるだけで、有機固体発光のスイッチングが実現できることを2005年に初めて示し、耐久性に優れた新しい機能性有機発光材料へのみちを拓くことに成功している。

今回は、固相での分子集積の重要な支配因子となる水素結合とスタッキング相

相互作用を競合させるという超分子化学に基づいた新しい分子設計を行い、圧力による集積構造変化で発光が可逆的に変化するという新規な感圧性有機発光材料を開発（図参照）。3月14日（水）の生研記者会見では、このような新規な感圧性有機発光材料に関して、分子構造と分子設計の要点、分子設計の汎用性、発光変化の機構とビ

エゾクロミズムなどについて説明し、印鑑を押した部分だけ発光色が変わる例などを示し、記録・表示材料や応力計測など、これまでにない新しい用途に向けた展望について述べた。

（研究交流部会長 川口 健一）



3月22日臨時記者会見

### 絶滅危惧種を音で観測する

海中工学研究センター長 浦 環教授  
KDDI研究所 小島 淳一プロジェクトリーダー 発表  
(独)水産総合研究センター水産工学研究所 赤松 友成主任研究員

浦研究室を中心とする鯨類調査グループが本年1月から2月にかけてインド共和国において行った、イルカの音響観測実験について記者会見が開かれた。代表者の浦環教授がプロジェクトの全体像、これまでの研究の歩み、今回の実験についての報告を行った。

日本側の本調査グループは生産技術研究所、(株)KDDI研究所、(有)システム技研、(独)水産総合研究センターで構成されており、産学官の協力のもと、多角的な視点から調査が進められている。またインド側はインド工科大学デリー校、WWF-India、チリカ湖開発管理局などで構成されている。

本研究は、最先端の技術を駆使してイルカの音響観測システムの開発を行

い、新たな知見を得ることが目的である。今回の実験の観測対象種と場所はガンジスカワイルカ（ガンジス川）およびカワゴンドウ（オリッサ州チリカ湖）であり、共に絶滅が危惧されている。とりわけガンジスカワイルカは緊急性が極めて高いことで知られる。

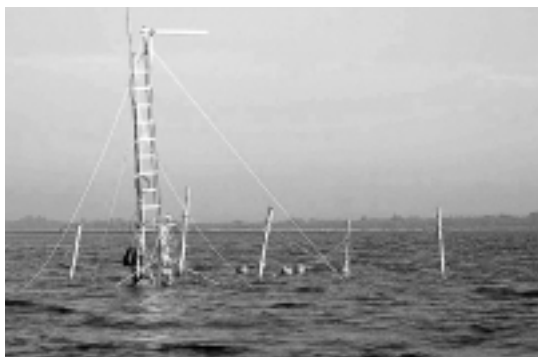
記者会見では、以下の2点について説明がなされた。

1) ガンジスカワイルカの本格的な音響調査は世界でも初の試みである

2) カワゴンドウの調査は、観測基地を建設し、イルカの位置をリアルタイムに観測した。イルカの潜水行動のリアルタイム観測も世界で初めての試みである

的確な保護戦略を打ち出すためにも、双方の実験で得られたデータを事後解析することにより、水中行動の新しい知見を得ることが期待される。

（海中工学研究センター 浦研究室 修士課程2年 井上 知己）



チリカ湖に設置した水上基地



ガンジス川に棲息するガンジスカワイルカ

## 第12回ICUSオープンレクチャー 「ICUSの活動—これまでの道のり、これからの展望—」



魚本 健人教授



安岡 善文教授



目黒 公郎教授

2007年4月25日午後、東京大学生産技術研究所（IIS）で第12回ICUSオープンレクチャーがおこなわれ、約130人が参加しました。講演会のタイトルは「ICUSの活動—これまでの道のり、これからの展望—」でした。

都市基盤安全工学国際研究センター（ICUS）は、21世紀の安全な都市基盤整備のために都市安全工学の様々な研究およびネットワークの構築、情報普及を行うことを目的として2001年4月に設立

されました。今回のオープンレクチャーは、設立6周年の成果を振り返るとともに今後の活動を展望する場となりました。

大岡准教授による開会の挨拶と趣旨説明の後、以下の各講演が行われました。

●「都市防災とコンクリート」

魚本健人（芝浦工業大学／元ICUSセンター長 教授）

●「都市環境と災害の観測と評価」

安岡善文（生産技術研究所 教授）

●「これからの都市防災：ハードとソフト、国内と国際の視点から」

目黒公郎（ICUSセンター長 教授）

●「ICUS海外研究員からICUSに寄せて」（ICUSネットワークメンバー3名からのビデオメッセージ）

Dushmanta Dutta（オーストラリアモナッシュ大学 講師）

Tan Kiang Hwee（シンガポール国立大学 助教授）

Mehedi Ansary（バングラデシュ技術工科大学 教授）

講演後、安岡教授による閉会の挨拶がありました。閉会後に催された懇親会には約60人が出席しました。

（都市基盤安全工学国際研究センター パオラ・マヨルカ）

## 第3回計測技術開発センターシンポジウム 「化学物質汚染に関する計測と対策」



3月23日（金）、An棟コンベンションホールにて、約120名の聴衆を集めて第3回計測技術開発センターシンポジウム「化学物質汚染に関する計測と対策」が開催されました。このシンポジウムは計測技術開発センターで行われているバイオセンサーを用いた微量化学物質の計測ならびに建材などに組み込まれた化学物質の吸着、分解と放散を計測する技術

を中心に、関連する技術の概要を紹介し、その課題と将来動向を議論することを目的とするものです。

セッション1では、始めに計測技術開発センター長加藤信介教授から計測技術開発センターの紹介を含めた開会の挨拶があり、続いて、計測技術開発センター立間徹助教授から光触媒による殺菌および有害物質除去：AOP、UV法との比較についての講演がなされました。続いて、助手の坂井伸行氏と小森善久夫氏からそれぞれ酸化チタン光触媒表面の超親水化現象とその応用とバイオアッセイを用いたガスの毒性評価に関して講演がなされました。

セッション2では、バイオセンサーによる室内空気質測定の可能性と紫外線を利用した建物内の殺菌を主題として、

大学院生の竹内健一郎氏からメダカを用いた室内空気質測定に関する講演がなされました。また、建築材料、家電製品などからのSVOCの放散速度測定法に関して大学院生の徐長厚氏が講演しました。最後に、加藤信介教授から紫外線を利用した建物内の殺菌・消毒に関して、UVGIを用いた新しい建物内の殺菌法が紹介されました。各発表は活発な討論によりしばしば遅れ、この分野に対する関心の高さを示すものとなりました。今回のシンポジウムは、建築環境工学、環境設備、計測化学、電気化学など異なる分野の研究者の交流に役立つものになると共に、建物内の有害物質の探知にバイオセンサーの利用や紫外線を利用した建物内の殺菌・消毒法の開発に大きく貢献するものとなりました。

（計測技術開発センター長 加藤 信介）

## 絵はがき「生研の四季」

生研映像技術室では、所長裁量経費の助成を受けてこのほど生研絵葉書を発行しました。

絵葉書の内容は、倉科満寿夫室員が数年間撮りためた生研キャンパスの美し

く、ユニークな写真集となっています。

第1版は2,000部、第2版も本年中に数千部を限定発行の予定です。

第1版と第2版は微妙に内容も違いますから、とくに第1版はプレミアムが高

いといえます。

12枚組1セットで定価200円、生協購買部などで入手できます。

売り切れご免で好評発売中。

(映像技術室長 川口 健一)



生研絵葉書セットとケースデザイン



駒場Ⅱリサーチキャンパスの桜



## 東京大学の生命科学シンポジウム



2007年4月14日、安田講堂において第4回「東京大学の生命科学シンポジウム」が開催された。小宮山宏総長や浅島

誠理事／副学長をはじめとする多数の先生方も出席され、たいへん盛会であった。本シンポジウムは、福田裕穂理学系研究科教授をネットワーク長とする生命科学教育支援ネットワーク（生研からは酒井康行准教授が運営委員として参加されている）と、入村達郎薬学系研究科教授をはじめとするシンポジウム世話人委員会のご尽力によって支えられ、すばらしい運営であった。学内の様々な部局の教員による13件

の多彩な講演が行われ、本学の生命科学の広がりや深さが実感できた。生研からは筆者が「生命システムへの数理的アプローチ」について講演した。シンポジウム閉会後は、山上会館で懇親会が開かれ、活発な意見交換が行われた。

本シンポジウムを通じて、他部局の先生方とも研究上の接点生まれ、個人的にもたいへん有意義であった。今後も未長く続く伝統あるシンポジウムへと、さらに発展していくことが期待される。

（情報・エレクトロニクス系部門  
合原 一幸）

## AWARDS

所属	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
情報・エレクトロニクス系部門	助教授 橋本 秀紀 大学院学生 新妻実保子	SI2006 優秀講演賞 第7回(社)計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会	講演「空間メモリの使用履歴に基づく人間活動分類の一考察」	2006.12.16
マイクロメカトロニクス国際研究センター 物質・環境系部門 機械・生体系部門	助教授 藤井 輝夫 助教授 酒井 康行 助手 山本貴富喜 大学院学生 木村 啓志	SI2006 優秀講演賞 第7回(社)計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会	2-コンパートメントを有する灌流系細胞培養アクセシブルマイクロデバイスの開発	2006.12.16
情報・エレクトロニクス系部門	助教授 橋本 秀紀	For contributions to SICE-ICASE International Joint Conference 2006, SICE (The Society of Instrument and Control Engineers)	議長としてのSICE-ICASE International Joint Conference 2006 に対する貢献	2007. 2.22
基礎系部門	教授 田中 肇 助手 荒木 武昭	TOP PAPERS 2006 Institute of Physics Publishing	Separating particles by their surface properties	2007. 3.
人間・社会系部門	特任助手 瀬戸 心太	平成18年度土木学会水工学委員会 「水工学論文奨励賞」 (社)土木学会	TRMM/PR降雨強度推定アルゴリズムの再検討—表面参照法に起因するバイアス—	2007. 3. 6
物質・環境系部門	助教授 岡部 徹	日本金属学会功績賞 (社)日本金属学会	レアメタルの製錬やリサイクルなどのプロセス開発に関する研究について	2007. 3.27
基礎系部門	助手 藤村 隆史	応用物理学会講演奨励賞 応用物理学会	2006年秋季学術講演会・口頭発表 「広帯域光源による体積型ホログラムの非破壊再生方法」	2007. 3.27
物質・環境系部門	助教授 岡部 徹 大学院学生 竹田 修	資源・素材学会論文賞 (社)資源・素材学会	High-Speed Titanium Production by Magnesiothermic Reduction of Titanium Trichloride	2007. 3.30
情報・エレクトロニクス系部門	教授 堀 洋一 Giuseppe Guidi Tore Undeland	Best Paper Award at the Forth Power Conversion Conference IEE-Japan (電気学会) IEEE-IAS (米国電気学会産業応用部門)	An Interface Converter with Reduced VA Ratings for Battery-Supercapacitor Mixed Systems	2007. 4. 4

### ■学生部門

所属	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
情報・エレクトロニクス系部門 松浦研究室	大学院学生 楊 鵬 (Peng Yang)	IPSJ Digital Courier 船井若手奨励賞 (財)船井情報科学振興財団	Relations among Notions of Security for Identity Based Encryption Schemes	2007. 3.28
情報・エレクトロニクス系部門 橋本研究室	大学院学生 新妻実保子	IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter	Extraction of Space-Human Activity Association for Design of Intelligent Environment	2007. 4.12
人間・社会系部門 岸研究室	大学院学生 安 台浩 (Ahn, Tae-Ho)	Travel Award First International Conference on Self Healing Materials	Self Healing Behaviour by Cementitious Recrystallization of Cracked Concrete Incorporating Expansive Agent	2007. 4.20

# PERSONNEL

## 人事異動

### 教員等

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 3.31	魚本 健人	任期満了退職	—	教授 千葉実験所長・附属都市基盤安全工学国際研究センター長
19. 3.31	安岡 善文	辞職	理事(常勤) 独立行政法人国立環境研究所	教授 人間・社会系部門
19. 3.31	榊 裕之	定年退職	—	教授 情報・エレクトロニクス系部門
19. 3.31	高木堅志郎	定年退職	—	教授 基礎系部門
19. 3.31	佐々木 亨	辞職	文部科学事務官 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課企画官	助教授 物質・環境系部門
19. 3.31	葛巻 徹	辞職	—	講師 物質・環境系部門
19. 3.31	川津 琢也	辞職	研究職員 独立行政法人物質・材料研究機構	助手 情報・エレクトロニクス系部門
19. 3.31	能勢 義昭	定年退職	—	助手 附属海中工学研究センター

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	荒木 武昭	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	上村 祥史	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	桑水流 理	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	高橋 典之	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	南 秉群	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	WILDE MARKUS	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	藤村 隆史	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	町田 学	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	松本 益明	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	美谷周二朗	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	横井 喜充	配置換	助教 基礎系部門	助手 基礎系部門
19. 4. 1	佐野 偉光	配置換	助教 機械・生体系部門	助手 機械・生体系部門
19. 4. 1	杉山 澄雄	配置換	助教 機械・生体系部門	助手 機械・生体系部門
19. 4. 1	鈴木 宏明	配置換	助教 機械・生体系部門	助手 機械・生体系部門
19. 4. 1	高垣 昌和	配置換	助教 機械・生体系部門	助手 機械・生体系部門
19. 4. 1	高野 清	配置換	助教 機械・生体系部門	助手 機械・生体系部門
19. 4. 1	野島 高彦	配置換	助教 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	助手 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター
19. 4. 1	望月 将志	配置換	助教 附属海中工学研究センター	助手 附属海中工学研究センター
19. 4. 1	山本貴富喜	配置換	助教 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	助手 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター
19. 4. 1	大塚由紀子	配置換	助教 情報・エレクトロニクス系部門	助手 情報・エレクトロニクス系部門
19. 4. 1	岡部 孝弘	配置換	助教 附属戦略情報融合国際研究センター	助手 附属戦略情報融合国際研究センター
19. 4. 1	小野寺賢司	配置換	助教 附属戦略情報融合国際研究センター	助手 附属戦略情報融合国際研究センター
19. 4. 1	相良 毅	配置換	助教 附属戦略情報融合国際研究センター	助手 附属戦略情報融合国際研究センター
19. 4. 1	柴田 憲司	配置換	助教 情報・エレクトロニクス系部門	助手 情報・エレクトロニクス系部門
19. 4. 1	田中 剛平	配置換	助教 情報・エレクトロニクス系部門	助手 情報・エレクトロニクス系部門
19. 4. 1	中野美由紀	配置換	助教 情報・エレクトロニクス系部門	助手 情報・エレクトロニクス系部門
19. 4. 1	根本 利弘	配置換	助教 附属戦略情報融合国際研究センター	助手 附属戦略情報融合国際研究センター
19. 4. 1	太田 実雄	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門
19. 4. 1	KASUYA MARIA CARMELITA ZULUETA	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門
19. 4. 1	加藤 祐樹	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門
19. 4. 1	神子 公男	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門
19. 4. 1	小森喜久夫	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門
19. 4. 1	坂井 伸行	配置換	助教 附属計測技術開発センター	助手 附属計測技術開発センター
19. 4. 1	坂本 清志	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門
19. 4. 1	清野 秀岳	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門
19. 4. 1	徳満 和人	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	務台 俊樹	配置換	助教 物質・環境系部門	助手 物質・環境系部門
19. 4. 1	上野佳奈子	配置換	助教 人間・社会系部門	助手 人間・社会系部門
19. 4. 1	遠藤 貴宏	配置換	助教 附属都市基盤安全工学国際研究センター	助手 附属都市基盤安全工学国際研究センター
19. 4. 1	大田 省一	配置換	助教 人間・社会系部門	助手 人間・社会系部門
19. 4. 1	黄 弘	配置換	助教 附属計測技術開発センター	助手 附属計測技術開発センター
19. 4. 1	陳 宏	配置換	助教 人間・社会系部門	助手 人間・社会系部門
19. 4. 1	吉中 進	配置換	助教 人間・社会系部門	助手 人間・社会系部門
19. 4. 1	芳村 圭	配置換	助教 人間・社会系部門	助手 人間・社会系部門
19. 4. 1	吉村 美保	配置換	助教 附属都市基盤安全工学国際研究センター	助手 附属都市基盤安全工学国際研究センター

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	堤 敦司	昇任	教授 機械・生体系部門	助教授 大学院工学系研究科

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	常川 利之	採用	教授 機械・生体系部門 高度生産システム分野	—
19. 4. 1	鼎 信次郎	採用	准教授 人間・社会系部門	—
19. 4. 1	佐藤 琢哉	採用	助教 基礎系部門	—
19. 4. 1	釜田 康裕	採用	助教 機械・生体系部門	—
19. 4. 1	伏見 千尋	採用	助教 機械・生体系部門	—
19. 4. 1	康 榮祚	採用	助教 物質・環境系部門	—
19. 4. 1	野瀬 健二	採用	助教 物質・環境系部門	—
19. 4. 1	増野 敦信	採用	助教 物質・環境系部門	—
19. 4. 1	割田 博	採用	助教 人間・社会系部門	—

(任期付教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	都井 裕	配置換	教授 機械・生体系部門 構造・材料シミュレーション分野	—
19. 4. 1	山本 良一	任期更新	教授 附属サステイナブル材料国際研究センター	—
19. 4. 1	藤森 照信	任期更新	教授 人間・社会系部門 都市・建築史学分野	—

(所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏名	異動内容	新兼務職名・兼務職名	旧兼務職名
19. 4. 1	渡邊 正	兼務	副所長(国際交流担当)	—
19. 4. 1	野城 智也	兼務	副所長	—
19. 4. 1	須田 義大	兼務	千葉実験所長	—
19. 4. 1	浦 環	兼務	附属海中工学研究センター長	—
19. 4. 1	日黒 公郎	兼務	附属都市基盤安全工学国際研究センター長	—
19. 4. 1	喜連川 優	兼務	附属戦略情報融合国際研究センター長	—
19. 4. 1	森田 一樹	兼務	附属サステイナブル材料国際研究センター副センター長	—

(兼任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
19. 4. 1	坂内 正夫	兼任	教授 附属戦略情報融合国際研究センター	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 理事 国立情報学研究所長
19. 4. 1	安岡 善文	兼任	教授	独立行政法人国立環境研究所 理事

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
19. 4. 1	西尾 茂文	兼務	教授 機械・生体系部門	理事・副学長
19. 4. 1	横井 秀俊	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 国際・産学共同研究センター
19. 4. 1	須田 義大	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 国際・産学共同研究センター
19. 4. 1	大島 まり	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報学環
19. 4. 1	佐藤 文俊	兼務	准教授 機械・生体系部門	准教授 情報基盤センター

# PERSONNEL

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
19. 4. 1	鈴木 高宏	兼 務	准教授 機械・生体系部門	准教授 大学院情報学環
19. 4. 1	荒川 泰彦	兼 務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 先端科学技術研究センター
19. 4. 1	池内 克史	兼 務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 大学院情報学環
19. 4. 1	櫻井 貴康	兼 務	教授 情報・エレクトロニクス系部門	教授 国際・産学共同研究センター
19. 4. 1	瀬崎 薫	兼 務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 空間情報科学研究センター
19. 4. 1	高宮 真	兼 務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 大規模集積システム設計教育研究センター
19. 4. 1	佐藤 洋一	兼 務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 大学院情報学環
19. 4. 1	岩本 敏	兼 務	講師 情報・エレクトロニクス系部門	講師 先端科学技術研究センター
19. 4. 1	影沢 政隆	兼 務	助教 情報・エレクトロニクス系部門	助教 大学院情報学環
19. 4. 1	畑中 研一	兼 務	教授 物質・環境系部門	教授 国際・産学共同研究センター
19. 4. 1	尾張 真則	兼 務	教授 物質・環境系部門	教授 環境安全研究センター
19. 4. 1	酒井 康行	兼 務	准教授 物質・環境系部門	准教授 大学院医学系研究科
19. 4. 1	安達 毅	兼 務	准教授 物質・環境系部門	准教授 環境安全研究センター
19. 4. 1	桑原 雅夫	兼 務	教授 人間・社会系部門	教授 国際・産学共同研究センター
19. 4. 1	柴崎 亮介	兼 務	教授 人間・社会系部門	教授 空間情報科学研究センター
19. 4. 1	久保山哲二	兼 務	助手 電子計算機室	助手 国際・産学共同研究センター

## (客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	職名・所属
19. 3.31	天野 玲子	任期満了退職	—	講師 (客員教授) 附属都市基盤安全工学国際研究センター
19. 4. 1	許 正憲	委嘱称号付与	講師 (客員教授) 附属海中工学研究センター	—
19. 4. 1	高川 真一	委嘱称号付与	講師 (客員教授) 附属海中工学研究センター	—
19. 4. 1	小高 俊彦	委嘱称号付与	講師 (客員教授) 附属戦略情報融合国際研究センター	—
19. 4. 1	CHUNG, Edward	委嘱称号付与	講師 (客員教授) 先進モビリティ (ITS) 連携研究センター	—
19. 4. 1	宮崎 早苗	委嘱称号付与	講師 (客員准教授) 附属都市基盤安全工学国際研究センター	講師 (客員助教授) 附属都市基盤安全工学国際研究センター

## (特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 3.31	DMITRIEV SERGUEI	任期満了退職	—	産学官連携研究員 (特任教授)
19. 3.31	勝山 俊夫	任期満了退職	—	産学官連携研究員 (特任教授)
19. 3.31	塚本 史郎	任期満了退職	—	産学官連携研究員 (特任助教授)
19. 3.31	永原 靖治	任期満了退職	特定プロジェクト研究員	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 3.31	青木 画奈	任期満了退職	特定プロジェクト研究員	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 3.31	白杵 達哉	任期満了退職	ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 科学技術振興特任教員 (特任教授)	産学官連携研究員 (特任教授)
19. 3.31	渡邊 克之	任期満了退職	ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 科学技術振興特任教員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 3.31	熊谷 直入	任期満了退職	ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 科学技術振興特任教員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 3.31	野村 政宏	任期満了退職	ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 科学技術振興特任教員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 3.31	瀬戸 心太	任期満了退職	地球観測データ統合連携研究機構 特任研究員	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 3.31	金田 尚志	任期満了退職	—	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	竹原昭一郎	採用称号付与	研究機関研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	山口 大助	採用称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	小野晋太郎	採用称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	阪野 貴彦	採用称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	—
19. 4. 1	KELLY KEVIN LANCE	採用称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	—
19. 4. 1	高橋 幸奈	採用称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	—
19. 4. 1	今村 卓志	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	川村 稔	称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	関場 大一郎	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	韓 軍	称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	福場 辰洋	称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	呉 世訓	称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	大石 岳史	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	大塚 真吾	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	鍛冶 伸裕	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	工藤 俊亮	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	合田 和生	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	濱田 玲子	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	宮崎 大輔	称号付与	産学官連携研究員 (特任助教)	産学官連携研究員 (特任助手)
19. 4. 1	石田 一樹	称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	陳 天恩	称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)
19. 4. 1	MAYORCA ARELLANO, Julisa Paola	称号付与	特定プロジェクト研究員 (特任助教)	特定プロジェクト研究員 (特任助手)

## 技術系

### (退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 3.31	道端 正裕	辞職	—	技術職員 機械・生体系部門
19. 3.31	岡田 和三	定年退職	—	技術専門職員 機械・生体系部門

### (再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	岡田 和三	再雇用	再雇用教職員 機械・生体系部門	—
19. 4. 1	鳥光 道枝	任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門	—
19. 4. 1	中村 英俊	任期更新	再雇用教職員 映像技術室	—
19. 4. 1	石川 利明	任期更新	再雇用教職員 附属千葉実験所	—

# PERSONNEL

## 事務系

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 3.31	村山 妙子	定年退職	—	総務課主任 (研究総務チーム)

(学内異動 (出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	野口 協二	配置換	人事部 人材育成グループ長	総務課長
19. 4. 1	川口 安名	昇任	大学院農学生命科学研究科・農学部 経理課長	経理課副課長 連携研究支援室長
19. 4. 1	宗像 光博	昇任	大学院工学系研究科・工学部 経理課財務チーム主査	経理課係長
19. 4. 1	古川 稔子	配置換	柏地区事務部 物性研担当課専門職員	総務課係長 (国際交流チーム) 国際交流チームリーダー

(学内異動 (入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	大西 淳彦	昇任	総務課長	人事部人事課 副課長
19. 4. 1	國京 毅明	配置換	経理課主任 (施設管理チーム)	施設部環境課主任

(復帰・採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	小檜山克則	復帰	経理課副課長 連携研究支援室長	情報・システム研究機構国立情報学研究所管理部会計課課長補佐
19. 4. 1	清水 正一	復帰	総務課係長 (国際交流チーム) 国際交流チームリーダー	日本学生支援機構 留学生事業部交流事業課フォロアアップ事業係長
19. 4. 1	伊藤 正則	復帰	経理課係長 (施設管理チーム)	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部科学推進部 研究推進室財務・マネジメント課主査

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	森田 宏二	昇任	総務課主任 (人事・厚生チーム)	総務課一般職員 (人事・厚生チーム)
19. 4. 1	木村 直之	昇任	経理課主任 (連携研究支援室執行チーム)	経理課一般職員 (連携研究支援室執行チーム)

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
19. 4. 1	野口 宏	任期更新	再雇用職員 千葉実験所事務室	—

## 着任のご挨拶

機械・生体系部門 教授

帯川 利之



4月1日付で機械・生体系部門の教授に着任しました。

専門は加工学です。加工の現象は極めて複雑ですが、それを実験と解析によって解明し、満足度の高い加工技術を実現するための課題に取り組んでいます。また環境に調和し、しかも、経済的に成立する加工技術についても研究を行っています。現在、加工技術は益々微細化・精緻化していますが、これからも加工技術の新たな発展に貢献していきたいと存じますので、どうぞよろしく願い致します。

## 採用



●基礎系部門  
志村研究室 助教  
佐藤 琢哉



●機械・生体系部門  
帯川研究室 助教  
釜田 康裕



●機械・生体系部門  
堤研究室 助教  
伏見 千尋



●物質・環境系部門  
森田研究室 助教  
康 榮祚



●物質・環境系部門  
光田研究室 助教  
野瀬 健二



●物質・環境系部門  
井上研究室 助教  
増野 敦信

## 配置換



●人間・社会系部門  
桑原研究室 助教  
割田 博



●経理課主任  
(施設管理チーム)  
國京 毅明



●経理課副課長  
連携研究支援室長  
小檜山克則



●総務課係長 (国際交流チーム) 国際交流チームリーダー  
清水 正一



●経理課係長  
(施設管理チーム)  
伊藤 正則



# PERSONNEL

機械・生体系部門 教授

堤 敦司



30年近く過ごした本郷から4月1日付けで機械・生体系部門に着任しました。専門はエネルギープロセス工学で、コプロダクション、エクセルギー再生、物質・エネルギー再生による物質とエネルギー循環による持続型社会の構築を目指し、次世代高効率石炭ガス化技術開発（STEP-CCCT）、産業分野におけるコプロダクション、高出力密度の燃料電池（FCB）の開発等を行っています。エネルギー・環境問題の解決に向けて努力していく所存ですので、よろしくお祈りします。

総務課長

大西 淳彦



4月1日付けで総務課長に就任しました。採用されてから30年余り、駒場と研究所での勤務ははじめてで、少し戸惑いもありますが、生産技術研究所に勤めることができ、とてもうれしく思っています。それは生研出身の方にお話を聞くと、生研は良いところだと言ってくれるからです。

これからは、前田所長をはじめ皆様方のご指導とご協力を得ながら、皆さんに生研はとても良いところだと言っていただけるよう努力していきますので、どうぞよろしくお祈りいたします。



## 憧れの研究リゾート・ラホヤより

人間・社会系部門、UCSD スクリプス海洋学研究所気候研究部 派遣

芳村 圭

2006年6月から日本学術振興会（JSPS）海外特別研究員として、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）に附属するスクリプス海洋学研究所（以下スクリプス）の気候研究部にて派遣勤務しています。ここスクリプスは、年間降雨日数10%未満（要するにほとんど晴れ）の南カリフォルニアのリゾート地ラホヤ（La Jolla）のビーチ沿いに位置し、アメリカ人自身も羨む優雅なロケーションにあります。そのせいか、生研の人種構成としてはアメリカ人の割合が比較的多いですが、やはり他のアメリカ有名大学・研究所と同様、国際性は豊かでなかでもアジア人（特に中韓）の進出は著しい模様です。また、市全体に他の研究所も数多く、研究者・学生が多い、というのも特徴のひとつです。

スクリプス最大の特徴は、サーフボードやそれに類する道具がどのオフィスにも置かれているということなのですが、それはさておき、分業／個人主義の尊重・勤務時間の短さ・飲み会の少なさといった生研との様々な違いのほとんどが、効率の徹底に帰結していると考えています。特に、私のいる気候研究部では数値モデリング研究が盛んなので、気付いたら誰とも口を聞かずに一日が終わっていた、ということもままあります。しかし、木曜3時には気候研究部のお茶会、金曜夕方（TGIF（Thank God It's Friday：金曜を祝う所全体の飲み会））があり、他の人との交流を深めることは容易です。

週末は、サーフィンや自転車、テニスやゴルフなど、アウトドアスポーツをするにもってこいな気候と環境が揃っているため、日ごろの効率主義の反動とばかり、私も含め皆エン

ジョイしています。これから意外に寒い冬と春が終わりアウトドアに絶好の夏がやってくるので、週末をフルに楽しむため、如何により効率良く仕事をこなすかが個人的な課題でしょうか。そのあたり私はアメリカ人の仲間と比べるとまだまだ修行が足りないな、と痛感しています。

特段の事情が無い限り帰国してはいけないというJSPSのルールにも関わらず、二年間生研から遠ざかることを許可してくれた沖教授・鼎准教授、私が空けた穴を埋める以上の活躍をされている瀬戸特任助教と秘書陣、及び生研の皆様方には、どれだけ感謝してもし尽かせない思いです。この恩に報いるためにも、残りの一年、公私共に全力を注ぎ、経験と知識と人脈を築く所存ですので、今後ともよろしくお祈りいたします。



みなさん、ネオ屋台村はもうお試しになったでしょうか!? ネオ屋台村とは毎週火曜と木曜のランチタイムに駒場Ⅱキャンパスの13号館と14号館の間で営業している移動式食堂のことです。各曜日2種類の屋台が営業しており、火曜と木曜では異なる種類の屋台が来ているので全部で4種類の違った料理が楽しめます。どれも、600円から700円程度で大満足の内容です! 今回は、火曜日の「Flapper」と「taco★choice」というお店を体験してきました。

「Flapper」はハワイの家庭料理「もちこチキン」という料理を出しています。「もちこチキン」は鶏肉をモチ米粉で揚げたもので、日本のから揚げとは微妙に違う新しい食感を楽しめます。チキンにかけるソースは、タルタル・トマトチリ・ハニーマスタードの3種類から選ぶことができます。男性人気No.1は「タルタル」で、女性人気No.1は「ハニーマスタード」だそうです。大盛りごはんの上にごろっと豪快にのった「もちこチキン」にナムル・マカロニチーズのつけ合せ付で600円。おいしく頂いてお腹一杯になりました。

「taco★choice」ではメキシコのタコライスとタコスが食べられます。「taco★choice」のタコライスのウリは、チョリソーやサワークリームなどのトッピングを2種類追加できること。今回は温泉卵とアボガドディップを追加してみました。なかなか

他では食べられない、珍しいお味です。トマトたっぷりのサルサソースとジューシーな挽き肉もうまく絡んでおいしく、見た目にも楽しいタコライスでした。タコライス600円、トッピング+50円、タコス2個入り700円です!

木曜は韓国料理の「デリキムチ」、インドカレーの「+スパイス」というお店がやってきます。このようにネオ屋台村では、駒場に居ながらにして各国の美味しいランチが食べられます。ぜひ1度、いや1度といわず何度でも、ネオ屋台村を試してみたいかがでしょう!

(機械・生体系部門 竹内研究室 修士2年 中村 元)



## PRESS RELEASE

### 生研関連新聞記事

以下の各紙に掲載された生産技術研究所の研究成果に関する記事について紹介しています。

詳細は、総務・広報チームにお問い合わせください。

・読売、朝日、毎日、日経、産経、日刊工業、日経産業

なお、その他の新聞に掲載されたものを本欄に記載することを希望される場合は、総務・広報チームへご相談ください。

最新記事		
・奇想遺産＝日本 四階楼 建築史家 藤森照信 未来を夢見た明治の高層建築	[4/15 朝日新聞207面]	【藤森研究室】
・東京大学生産技術研究所 ふん尿からアミノ酸原料 フマル酸使ってアンモニア分離	[4/6 日経産業新聞(日経テレコン21) 8面]	【迫田研究室】
・「メゾン四畳半／藤森照信」展 6月10日まで東京・銀座のメゾンエルメスで開催	[4/6 日刊建設工業新聞10面]	【藤森研究室】
・東大など 量子ドットレーザー 通信向け量産確立	[3/29 日刊工業新聞1面]	【荒川研究室】
・能登地震の輪島市 里帰りの女性 「震災」記憶 姉救う	[3/27 読売新聞27面・読売新聞(大阪)20面 3/30 日刊工業新聞2面 4/1 読売新聞19面・読売新聞(大阪)16面]	【小長井研究室】
・レーザー＝東京大学生産技術研究所教授の高木堅志郎さん 波動論の人生観	[3/23 日刊工業新聞33面]	【高木研究室】
・東大など ガンジスカワイルカの超音波観測 行動を3次元で再現	[3/23 日刊工業新聞33面 3/24 日本経済新聞12面・東京新聞10面 3/25 産経新聞28面]	【浦研究室】
・廃家電も資源の宝庫 レア金属回収効率化 DOWA ホールディングス 三菱マテリアル コスト抑制課題に	[3/23 日本経済新聞15面]	【岡部研究室】
・東大、有機材料を開発 圧力加え発光色変化 センサーなどに応用も	[3/15 日経産業新聞(日経テレコン21)10面・化学工業日報8面・日刊工業新聞22面]	【荒木研究室】
・半導体進化論 イノベーター列伝＝第1部 トランジスタ60年(1) 「量子細線」極限の省エネ	[3/9 日経産業新聞(日経テレコン21)1面]	【平本研究室】

## ・ PROMENADE ・

### 日本での留學生活の面白さ

私は王瑤と申します。中国の瀋陽の東北育才中日友好分校という高校を卒業してから日本に来ました。最初京都で半年過ごしてから、東京に来ました。時間の流れが非常に速く、今もう6年目です。

2001年10月に200人ほどの高校同期と一緒に京都に来ました。膨大な人数で驚くかもしれないと思いますが、うちの高校は日本の大学の入試のために三年間の日本語教育が行われます。中国人の先生だけではなく、日本人の先生もいらっしゃったので、日本語と日本の文化に触れる機会がたくさんありました。しかし、19歳の私が京都に来たときに、聞いたこともない日常生活の言葉がたくさんあったので、日本語があまり通じませんでした。ですが、数ヶ月後にだんだん慣れてきました。「外国語を勉強したかったら、その国で生活すべきである」という意味を理解しました。そのとき大学の入試のために初めて夜行バスというものを利用し、周りの人は朝まで寝ていたのですが、私は東京までの時間で試験の前の心の準備などをしました。とても複雑な緊張した感覚でしたが、今思い出してもものすごくいい経験だったと思います。

2002年4月に大学に進学して東京に来ました。「やっぱり東京はにぎやかだ」と実感しました。歩きも速いし、仕事も勉強も忙しい環境です。私は若者なので東京でしっかり勉強したり仕事したりしたほうが良いと強く思いました。学校が終わった後に図書館で勉強したり、クラスメートとわからない問題について相談したりしていました。また、そのような十分な復習のほかに、アルバイトもやって日本の文化や企業の社風などを自分自身で体感しました。東京には高校の友達もいるし、多くの新しい友達もできたので寂しくなくなってきました。土、日曜日はサッカーや水泳などいろんな運動をして、いい大学生活を過ごしました。

今、東京大学の生産技術研究所でLSI分野の研究を行っています。研究室は日、中、韓とベルギー四つの国の学生で構成されています。研究所と呼ばれますが、運動のチャンスも多いし、パーティーもよくあります。先日行われたパー



ティーでは、中国や世界のいろいろな国から来た方々が参加して自分の国の美味しい料理を作ってふるまったので、中華料理以外の飲食文化を体感できました。世界のいろんな国の方々に自分の作った中華料理をお召し上がりになっていただき、感動でした。

去年の10月に友達と一緒に群馬県の草津温泉に行きました。写真をご覧ください。白根山の頂上、2160メートルに登りました。山の頂上は地上と比べて大きな温度差があることが分かりました。

今まで挙げてきたような体験は、今の私にとって大きな財産となっていると思います。

今は生研の生活の2年目です。研究は当然力を尽くして行いたいと思うのですが、有意義な活動にも参加したいと思っています。

(情報・エレクトロニクス系部門 桜井研究室  
修士2年 王 瑤  
ouyou@iis.u-tokyo.ac.jp)

## VISITS

### 外国人客員研究員

氏名	国籍・現職	研究期間	受入研究室
ROYALL, Christopher Patrick	連合王国・ブリストル大学 助教授	2007. 4. 1～2007. 9.30	基礎系部門 田中研究室
AHSAN, Raquib	バングラデシュ人民共和国・バングラデシュ工科大学 準教授	2007. 4.18～2007.10.18	基礎系部門 小長井研究室

### 博士研究員

氏名	国籍	研究期間	受入研究室
DUCLOUX, Olivier	フランス共和国	2007. 4.13～2009. 4.12	マイクロメカトロニクス国際研究センター 藤田研究室



# FRONTIER

## ゼオライトのレゴ合成

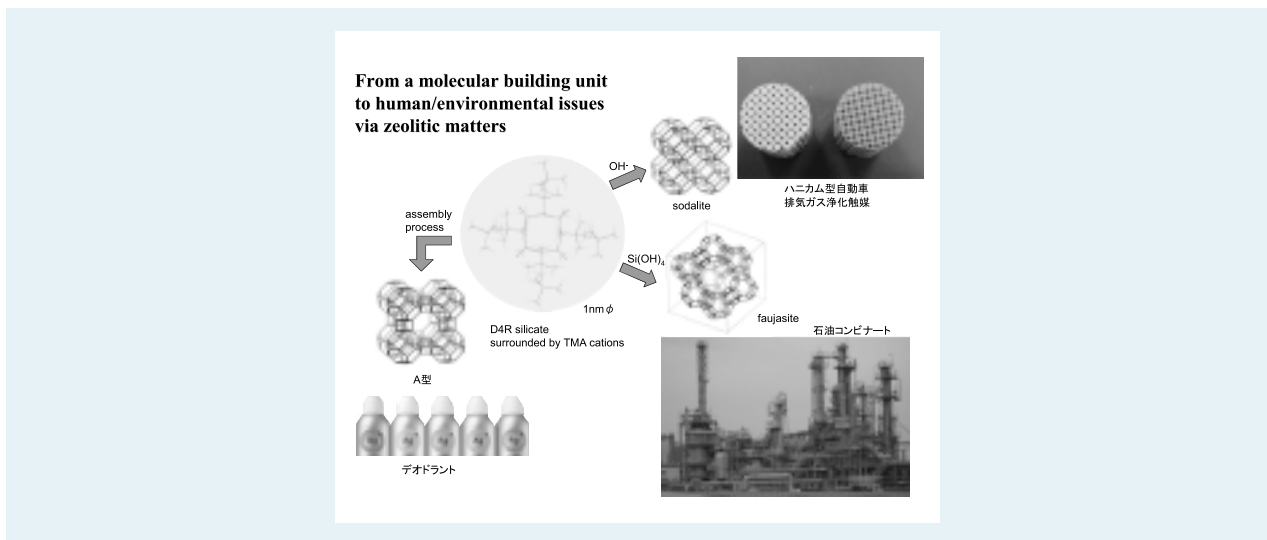
物質・環境系部門 小倉 賢

そもそも「ゼオライト (zeolite)」をご存じだろうか。ゼオライトとはzeo = 沸騰する、lithos = 石、つまり沸石であり、構造中に孔を多くもつ。クラーク数の大きい方から順に酸素、ケイ素、アルミニウムを組み合わせると骨格が組み上がるくらい、地上の石ころと同じ成分でありながら、分子サイズ (数オングストローム) の孔だらけのアルミノ珪酸塩結晶である。金属をイオンとしてその孔の中に保持することができるため、 $Ag^+$  (銀イオン) が固体中にも固定できたり、硬い水 (ミネラル分といわれるカルシウムイオンやマグネシウムイオンが多く含まれる) を軟らかい水にして洗濯剤の泡立ちをよくしたりすることができる。そこに $H^+$  (プロトン) が存在すると固体なのに酸性を示すようになり、最も重要なのは、石油を精製し (都合のいい大きさ、長さ、形の分子へと変換) 身の回りにある石油化学製品の原料をつくる“触媒”となることである。しかも細孔径分布がなく (同じ大きさの孔しかあいていない)、酸性を示す触媒活性点が孔の中にあるので、そこまで辿り着けるか否かの“選択性”“分子ふるい”という分子識別能が発揮され、さらにはその分子認識能によってエタノールと水を分離する膜にもなる。地球上に豊富な元素から成り立っている、どこにでもあるような石ころみたいなものだから、人にも環境にもやさしい (はず) なのだ。

そんな構造をよくみてみると、同じような構造単位が異な

った積層の仕方でも組み上がって、違う結晶構造になっている。我々は、水溶液中で立方体の形で安定に存在するアルミノ珪酸塩から、①殺菌作用を示す $Ag^+$ を保持するA型ゼオライト、②石油の炭化水素成分を分解して使い易く分子に変換するフォージャサイトゼオライト、③見た目にはAやフォージャサイトのような分子サイズの孔をもたないソーダライトゼオライトを作り分けた。また、孔がなく表面積が小さいにも関わらず、ソーダライトがディーゼルエンジン自動車の排気ガス中に含まれるパーティキュレート、いわゆる燃えカスのすす、を酸化除去する触媒として有望であることを最近我々は見いだした。同じ構造単位から組み上げていっても、形も違えば用途も全く違うものができたわけだ。まさに、人にも環境にもやさしかったのだ。

レゴは、8本足のブロックを2つ組み合わせるだけで24通り、3つ組み合わせると1,060通り、6つ組み合わせると102,981,500通りの形ができる創造の玩具である。今は我々の研究室ではゼオライトのブロックをひとつしか持ち合わせていないが、まるで異なった性質の形を3つ体現することができた。ゼオライトブロックをいろいろと探り、違った形にしたり孔を空ける創造 (想像) をしているが、ゼオライト国際組織で認定されている構造はたったの176通り (2007年4月現在) しかない。それはなぜだろう、と考えながら、今日も実験室に向かっているのである。



### ■編集後記■

「科学技術リテラシー」をネットで調べていたら、文科省の「科学技術に関する意識調査」というHPに出会った。欧米日各国で行なわれた共通問題11問が記載されていたので、試しに研究室メンバーでやってみた。まずまずの正答率であったが、日本語訳のせいか、深読みしてしまう問題も多く、これが常識? という違和感もあった。とはいえ、研究成果を

社会に浸透させるための努力は重要と思いつつ、生研公開が脳裏に浮かぶ。そういえば今年も、木、金、土の3日間。小中高生や近隣の方など、より一般の方の来所も歓迎するための土曜日開催。この日は、普段の講義や講演などと違った角度からのプレゼンが期待されている。さて今年はどうしたものか… (竹内 昌治)

■広報委員会 生研ニュース部会  
〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1  
東京大学生産技術研究所

■編集スタッフ  
竹内 昌治・美谷周二朗・高宮 真  
小倉 賢・田中 伸治・三井 伸子  
E-mail : iisnews@iis.u-tokyo.ac.jp  
生研ホームページ  
<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>